

町政を問う！



吉田 芳 春 議員

イノシシの駆除・

防御の強化を

問 みかんの収穫を前にイノシシがみかんを食い荒らし、柑橘園は全滅したと農家の方が話されていた。

このような状態が続くと、高齢と共に労働意欲も減退し、耕作放棄者が多数増え、向こう5年以内には本町の基幹産業である柑橘は衰退の一途を辿ることになる。緊急な対策が必要である。見解を問う。

答 本町の基幹産業である柑橘被害が、本年度は特に顕著に表れている。イノシシの増加は、イノシシがみかんの味を覚え、餌として認識してきた事も考えられる。イノシシ被害防止対策

は、「捕獲」と「防御」と「棲み分け」、この3本の施策を地道に実施することが現時点での対策と考えている。

要望 巷では、イノシシは周防大島町の人口よりも多く生息しているのではないとも言われているが、実際には生息頭数は不透明である。しかし、イノシシの捕獲頭数が年々増加している。これは捕獲技術の向上にもよるものがあるかも知れないが、それ以上に捕獲頭数に比例してイノシシが増加傾向にあると考えられる。

いずれにしても一刻も早くイノシシの増加に歯止めをかけ、農作物等の被害減少を地域住民と一体となって取り組み、イノシシの駆除と防御体制の強化を

イノシシの捕獲頭数

年 度	捕獲頭数
平成23年度	642 頭
平成24年度	998 頭
平成25年度	1,290 頭
平成26年度	1,621 頭
平成27年度	1,763 頭

要望する。

～未来につなごう～ 廃校の有効活用を



問 旧屋代小学校及び旧棕野小学校に、一時保存中の大島歴史民俗資料館の民俗資料を移転するため、旧田布施農業高校大島分校屋内運動場が改修され、民俗資料の移転作業も完了している。

今後は、旧屋代小学校及び旧棕野小学校の有効活用を図るため、地域の皆さんからの要望等をお聞きし、利活用について積極的に取り組み、屋代・棕野地区の発展策・活性化に資するよ

う要望する。学校施設は、地域住民にとつての身近な公共施設であり、また、その校舎などは地域のシンボリックな存在である場合が多く、廃校となった後もできるだけ地域コミュニティの拠点として活かすことが重要である。見解を問う。

答 旧屋代小学校の校舎は旧耐震基準に基づく建物であるため、民俗資料の保管や倉庫等の活用以外は有効な利用方法がないものとなっており、また講堂についても老朽化した木造建物のため、「学校跡地施設利用検討会」においては有効な利用方法が示されていない。今後、町長部局で検討することが望ましいとされている。

「旧棕野小学校跡地利用に関する検討会」において、避難所としての機能の確保、リハビリテーション施設、地区社会福祉協議会の活動拠点、企業誘致、棕野公民館を廃止して同様の機能を旧棕野小学校に整備する。等々の利用案があった。